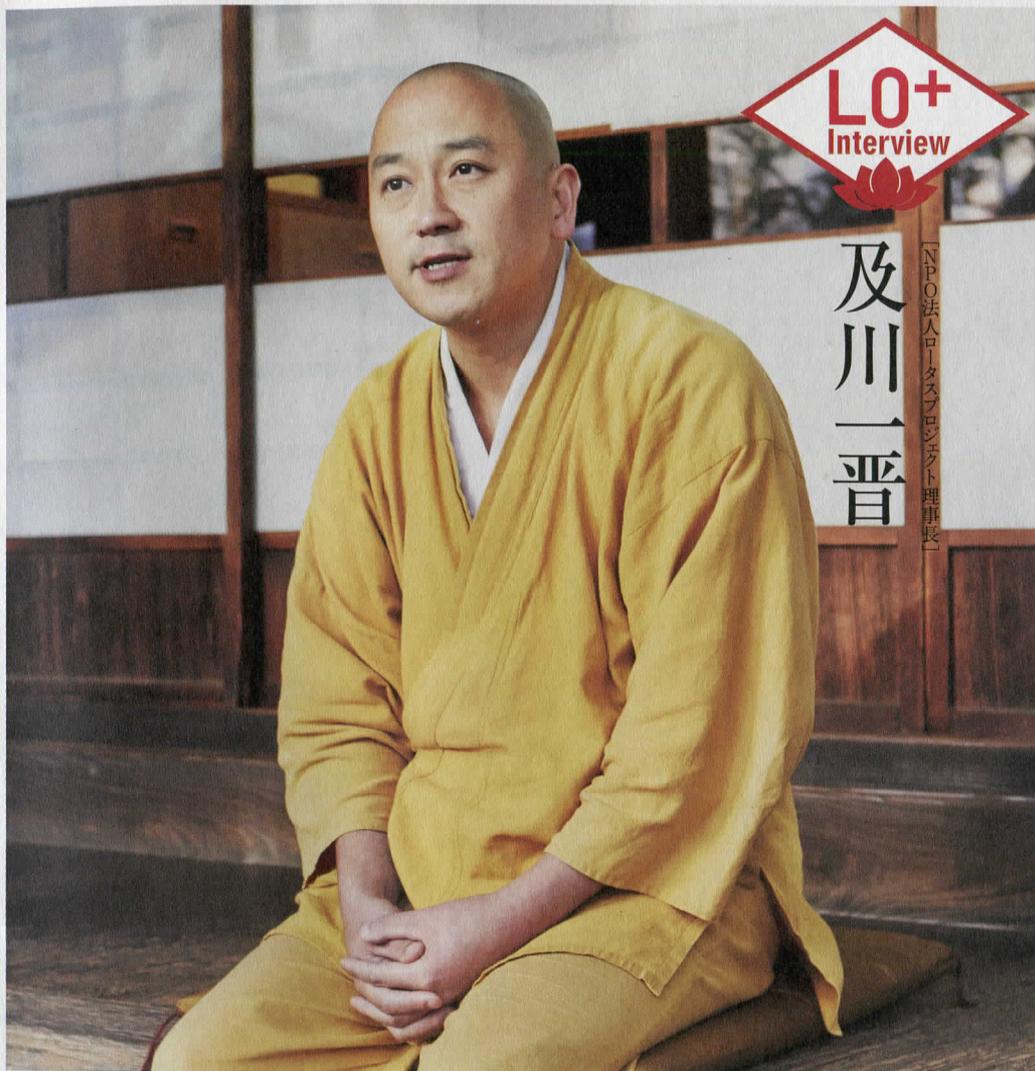


LO+
Interview

及川一晋

「NPO法人ロータスプロジェクト理事長」



「手渡し」をする大切さを共有できる人と繋がりたい。

本誌「季刊ロータス」の発案者であり、発行人である及川一晋さんに、NPO法人ロータスプロジェクトの活動と「季刊ロータス」創刊について、ご自身が執事長を務める西新宿の「常円寺」でお話を伺いました。

お坊さんというだけでなく 理事長という顔もあります

— NPO法人ロータスプロジェクトを始めたのはなぜですか？

より多くの方と交わりたいという考えからNPO法人として活動を始めました。もちろんお寺でもできないわけではありませんが、寺が主体だとそのイメージが強すぎ、どうしても檀家さんが対象になりやすい。だから私たちの活動をより外へと広げるためにNPO法人にしたのです。

— お寺ではなくNPO法人だとどんなメリットがあるんですか？

人から呼ばれやすくなることです。お坊さんと呼ばないと、お葬式や法事という連想しか浮かばないでしょう。でもNPO法人の理事長なら、もう少し広がりが見られるんじゃないですか。

そういう意味でも、お坊さんよりも、理事長という方が、より多くの人と関わっていくためには好都合なんです。

— NPO法人としてどんな活動をしているのですか？

「ヒト・モノ・コトが有機的につながるお寺を拠点としたプロジェクト」で、主な活動は里山保全活動です。私は新宿「常円寺」の執事長をしています。すが、住職をしているのは八王子の「延寿院」。ここは東京の近郊にありながら、すぐ側に里山があります。里山という豊かな自然というイメージをもたれるかもしれませんが、現実はずいぶん違います。人の手が入らなくなった里山は今、荒廃がすすんでいるのです。

— 自然は自然のまま、人の手が入らない方がいいのでは？

原生林なら確かにそうです。でも里山は何百年も人間が自然と深く関わ

り、自然を利用することで共生してきたのです。燃料として薪や炭が必要だから人が森に入り、農家では堆肥を作るために里山で落ち葉を集めていた。



八王子市川口町の里山。保全活動と一緒にを行うボランティアを募集しています。http://lotus-project.jp

そのサイクルの中で生きてきた動物や植物がいます。でもエネルギーはガスや電気が、肥料は化学肥料が取って代わったために人が里山を利用しなく

なった。そのために里山を維持することができなくなっているのです。変わることがいけないと言っているのではありません。急に変えてしまうことがいけない。人間の都合だけでなく、時間をかけて、まわりとのバランスをとりながら変えていくべきで、そのために里山をもう一度カタチを変えて人間が使っていくことが大切だと考えているのです。

八王子と西新宿とは 相互補完的な関係です

——なぜ八王子だけではなく、西新宿でも活動されるのですか？

電車ではJRや京王線、道なら甲州街道というように、新宿と八王子は繋がっているし、繋がっていないければいけない関係だと思っているからです。



表紙は、イラストレーター黒木ユタカ氏が繊細なタッチで西新宿の街の魅力を描きます。http://www.kurokiyutaka.com

この情報誌をハブとして、 より多くの人と繋がりたい

——「季刊ロータス」もそんな想いから作ったのですか？

私は坊さんですが、お寺のためだけにフリーペーパーを作ったわけではありません。かといってNPO法人でやっている自然保護活動のためだけではありません。より多くの人と結びつきたくて「季刊ロータス」を作りました。だから内容もいろいろです。次号からのこのインタビューには様々な職業のユニークな方が登場する予定だし、料理のレシピもあるし、健康情

田舎と都会と分けて考えがちですが、新宿には八王子的なものが、八王子には新宿的なものが必要で、相互補完的な関係だと思うのです。NPO法人ロータスプロジェクトの活動にも両方のフィールドが必要だと考えています。

——西新宿では、どんな活動をしているのですか？

初めに「常円寺」の門前に移動販売車を置いてロータスカフェをやりました。それからロータスヨガもやっています。私がヨガをやってみたいと思っています。ある檀家さんの通夜ぶるまいの席で、口にしたことがきっかけでした。うちの娘がヨガの先生をやっていると紹介され、お寺も近いんだからやりましょうと、話がトントン拍子に進み、実現しました。最近ではお寺という場所に人が集まり、何かを学んだり、遊んだり、楽しんだりする活動を

報もあります。西新宿のお店情報、「常円寺」で行われるイベント情報も掲載していきます。まず「季刊ロータス」がハブとなって、多くの人と繋がるのが大切。さらに「季刊ロータス」がきっかけとなり、私の知らないところで違うハブが生まれ、次へと繋がりたいなあと思っています。

——ネットで簡単に配信できるのになぜ「情報誌」なんですか？

冊子であることがとても大事だと思っています。それは「手渡し」をすることが出来るからです。あなたに読んで欲しいと手渡す。面白かったからと次の人に手渡す。そういうことを大切に思う人たちと繋がりたいからです。インターネットを否定するわけではないけれど、「季刊ロータス」は「手渡し」をする大切さを共有でき

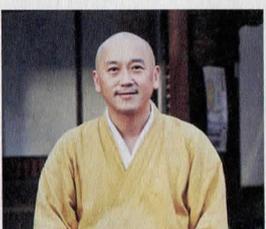
積極的に進めています。そのひとつが「成子塾」で、手始めにみそソムリエの方と一緒に手前味噌を仕込むワークショップをやりました。12月には「ロー



青梅街道から一步中に入ると「常円寺」。都会の喧噪を忘れさせてくれます。http://www.joenji.jp

タス寺市」を開催しました。集まった人たちと一緒によりよい暮らし方や生き方を考える、お寺をそんな場にしていきたいと思っています。

る人たちと繋がりたいと考え作った情報誌なのです。表紙のタイトルを「LOTUS」ではなく、あえて「LO+」としたのもそんな想いの現れです。すぐには「ロータス」とは読めないじゃないですか。それがいいんです。「実は、これでロータスと読むんですよ」とか「上に向かってプラスしていきたいからここに+があるんです」とかなんでもいい。話題が広がればいいと思ったのです。そんな風に自分なりのなんかひと言を添えて、誰かに手渡ししてもらえたら、嬉しいですね。



及川一平(おいかわいっしん)
昭和42年、父が住職をしていた八王子「本立寺」で生まれ、高校卒業まで過ごす。平成8年から八王子「延寿院」の住職。現在は祖父が住職をしていた西新宿「常円寺」の執事長も兼職。NPO法人ロータスプロジェクト理事長でもある。